

〔開館 55 周年記念特別展〕 山種美術館所蔵

浮世絵・江戸絵画名品選 ―写楽から琳派まで―

山種美術館（渋谷） 2021.07.03～08.29

当館の「浮世絵コレクション」は、「鈴木春信」から「鳥居清長」「喜多川歌麿」「東洲斎写楽」「葛飾北斎」「歌川広重」までの六大絵師の名品を多く所蔵しているため、専門家の間で高評価がされている。本展では、「写楽」の役者大首絵「3点」、赤富士で名高い「北斎」の《富嶽三十六景凱風快晴》、歌川広重《東海道五十三次》など絵師の代表作が揃う、珠玉のコレクションが前後期に分けて全点公開される企画のため注目される。（会期中に展示替えあり。）

〈本展の見どころ〉

1. 「写楽」や「北斎」をはじめとする六大浮世絵師の魅力が凝集している。
2. 「広重」の代表作《東海道五十三次》の全点が一挙に公開されている！
3. 「若冲」などの人気絵師や「重要文化財2点」、「重要美術品3点」を含む江戸時代の優品絵画が勢ぞろいしている。



鈴木春信 《梅の枝折り》 1767～68(明和4～5)年頃 中判錦絵

上堀越に伸び出る梅の枝を、侍女の背を借りて手で折ろうとするおてんばな町娘は、雪持竹の模様をつけた紅色の振袖姿が、灰色の上堀や侍女の着る媚茶色の地味な子袖とよく対比して、澁刺とした春の華やかさを発散している。

東洲斎写楽 《二代嵐龍蔵の金貸石部金吉》 1794(寛政6)年 大判錦絵

都座上演の劇中の悪役を演じた姿は、目を剥き、口を一文字に結んだ表情は一見ユーモラスであるが、憎々しい小悪党ぶりを巧みに演出している。

歌川広重 《名所江戸百景 大はしあたけの夕立》 1857(安政6)年 大判錦絵

大はし(大橋)は両国橋の下流の橋、あたけ(安宅)は橋の東側一帯の地名で、夏の突然の夕立を濃淡の黒色で表す繊細な表現と橋上を急ぐ生き生きとした姿が好対称をなす作品で、巨匠「ゴッホ」が模写したことで名高い。

また、琳派の作品が充実し狩野派や丸山四条派の優品が展示されている。